

●「くまもとアートポリス」にまつわるエピソード、計画地周辺の話題などを、くまもとアートポリスニュース誌上で取り上げていきます。ご意見、ご感想をお寄せください。

くまもとアートポリス'92に向けて
世界の建築博、都市博めぐり-----2

ミュンスター都市彫刻展 ドイツ

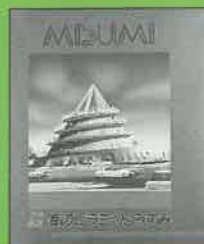


デニス・アダムスによるバス停。まちがえてバスを待つ人もいるが、もちろんバスは止らない。

まちづくりを通じた国際交流は今、ますます盛んになってきています。このページでは、世界中の都市で開催される「まちづくり」にかかわるさまざまな展覧会、博覧会をレポートします。



アートポリスの散歩道 三角港グッツ



三角港
海のピラミッドみすみ



ムルドル印 カップ

三角港のフェリーターミナルには、海産物、結晶を販売するショップがある。スタレのようなキスのヒモノやこのフェリーターミナル種類など、見学の合間にショッピングはいかが？

さて、お隣の西港も、歴史的な散歩道として整備が進み、明治の町並みを彷彿とさせる。様々なムルドル・グッツが新たにラインアップ。

東西両港は性格をことにするが、週末の賑わいに最適。

くまもとアートポリス 対象プロジェクトへの 参加募集

公共・民間を問わず、くまもとアートポリスへの事業参加を求めています。くまもとアートポリスコミッショナー磯崎新氏がプロジェクトにふさわしい建築家やデザイナーなどを推薦します。

●大規模な集合住宅、熊本市堂新地団地の建設がダイナミックに進んでいます。我が国ではめずらしい長い連続式の建築。次回は現場からレポートします。

12 日本の商社も数多く進出するデュッセルドルフからさらに北東に100キロほど、ミュンスター市はある。ドイツでは中世から信仰の街として知られ、750年の歴史を持つ。

市の中心にはゴシック教会を中心に石畳の広場がある。毎土曜日に開かれるマーケットでは、肉や野菜、日用品が所狭しと広げられ、隣のオランダからの買い物客も集まり賑わいを見せる場所だ。

この広場を中心として石積み切妻ファサードのいかにもゴシックの街並みと石畳の街路がぐるりと同心円状に囲まれている。

この街で1987年に開催されたミュンスター都市彫刻展。世界中の現代彫刻家を招待、彫刻の設置場所の選択と、制作を任せられたものだ。つまり作家は数か月というものこの街に滞在し、街の雰囲気をかき取り、テーマとびったりとあう場所を探したのだ。大半の彫刻は現在でも街のなかにのこされ、古い景観をもり立てている。

バス停紛いのもの、ゲート、自転車置き場、大きな壁。動物園跡地におかれたワニ。自由に任されたテーマだが、街の歴史をもり立てることに一役買っている。



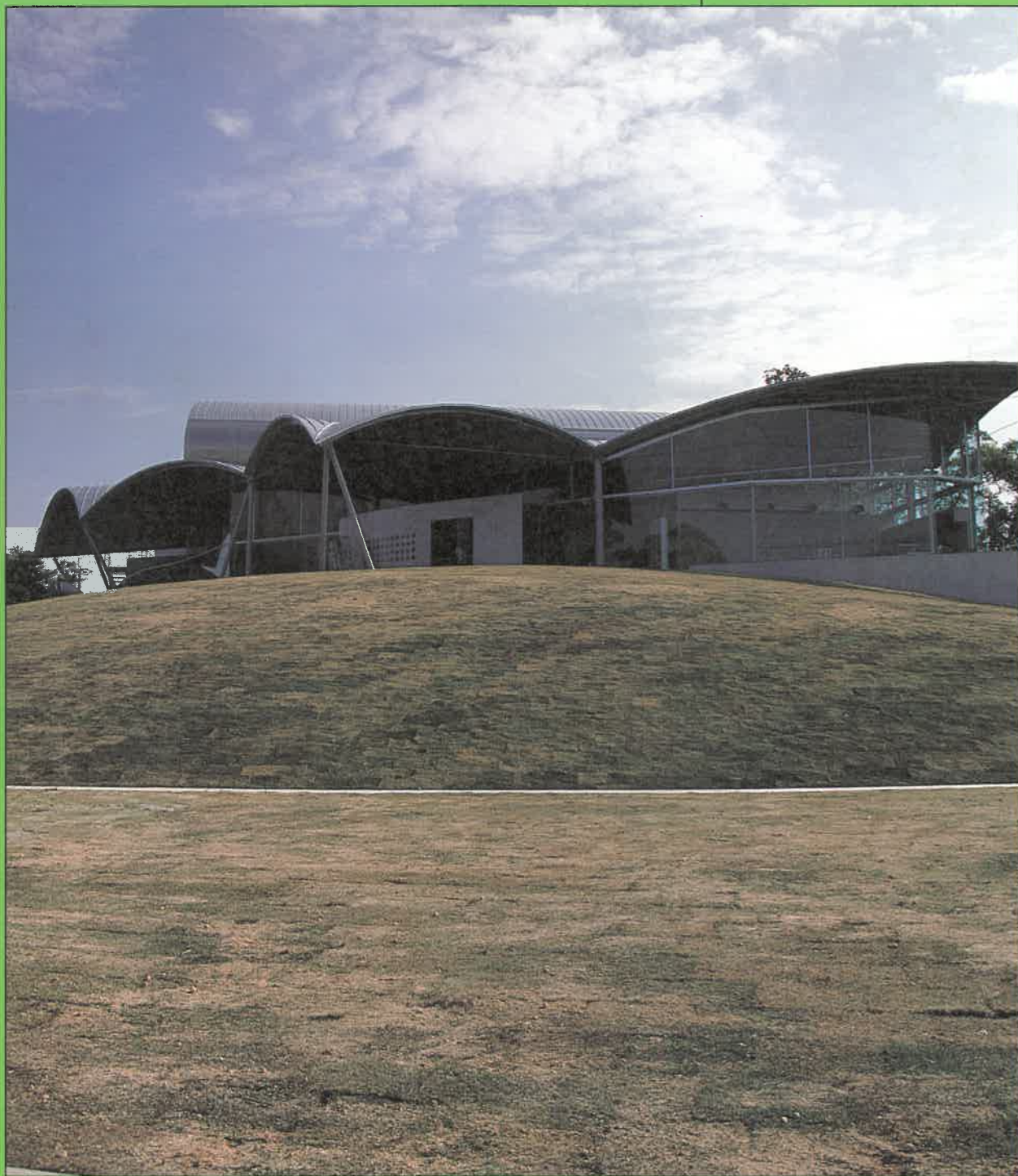
ダニエル・ビュランのゲート。中世の街並みとの対比。



キース・ヘリングによるワニ。もと動物園の場所にある。

市民の子供も大人も、この彫刻オリエンテリング案内ををかって出られるほど。街への愛着を高めるのに一役買っている。

- 速報/八代市博物館 未来の森ミュージアム完成へ
- ドキュメント---くまもとアートポリスプロジェクト「産山村花の交流館」
- くまもとアートポリス参加建築家に聞く----妹島和世
- 竣工プロジェクト紹介----「石打ダム管理所」青木茂

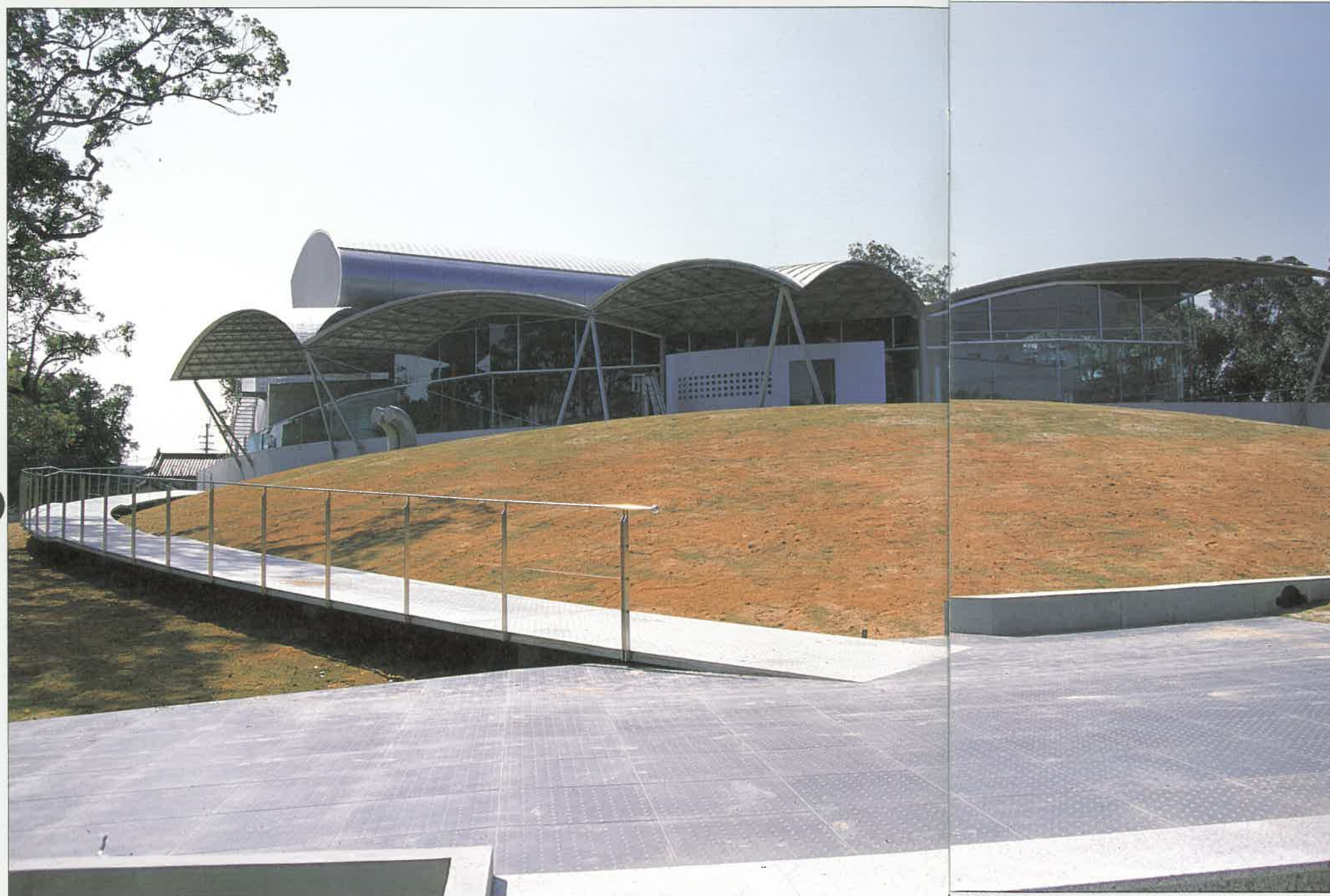


●発行-くまもとアートポリス事務局
熊本県土木部建築課内 熊本水前寺6-18-1
tel. 096-383-1111 (内線6220/6221)
fax 096-384-9820
●編集-くまもとアートポリスコミッショナー事務局
東京都渋谷区渋谷2-5-7 本間ビル
建築・都市ワークショップ内
tel. 03-407-4753 fax 03-3407-8753

完成した八代市立博物館 未来の森ミュージアム
博物館建設現場の跡いがとれて新博物館がその姿を現した。それはなだらかな緑の丘の向こうに見えた。

●速報 八代市立博物館 未来の森ミュージアム完成

晴れた日には芝生の丘に座って
お弁当を食べようか・・・



竣工を目前に控え、博物館がその最終的な姿を現した。

建物の回りに広がる緑豊かな環境と、宙に浮かんだシリンダーやステンレスの屋根などのメタリックなテクスチャーとの対比／調和は、空に向かって抜けていくような不思議な爽快感をつくりだしている。

「未来の森ミュージアム」の名称は公募で決まったものだが、この建物と環境をイメージさせてくれるようだ。

(曾我部昌史／伊東豊雄建築設計事務所)

2階 カフェを見る



2

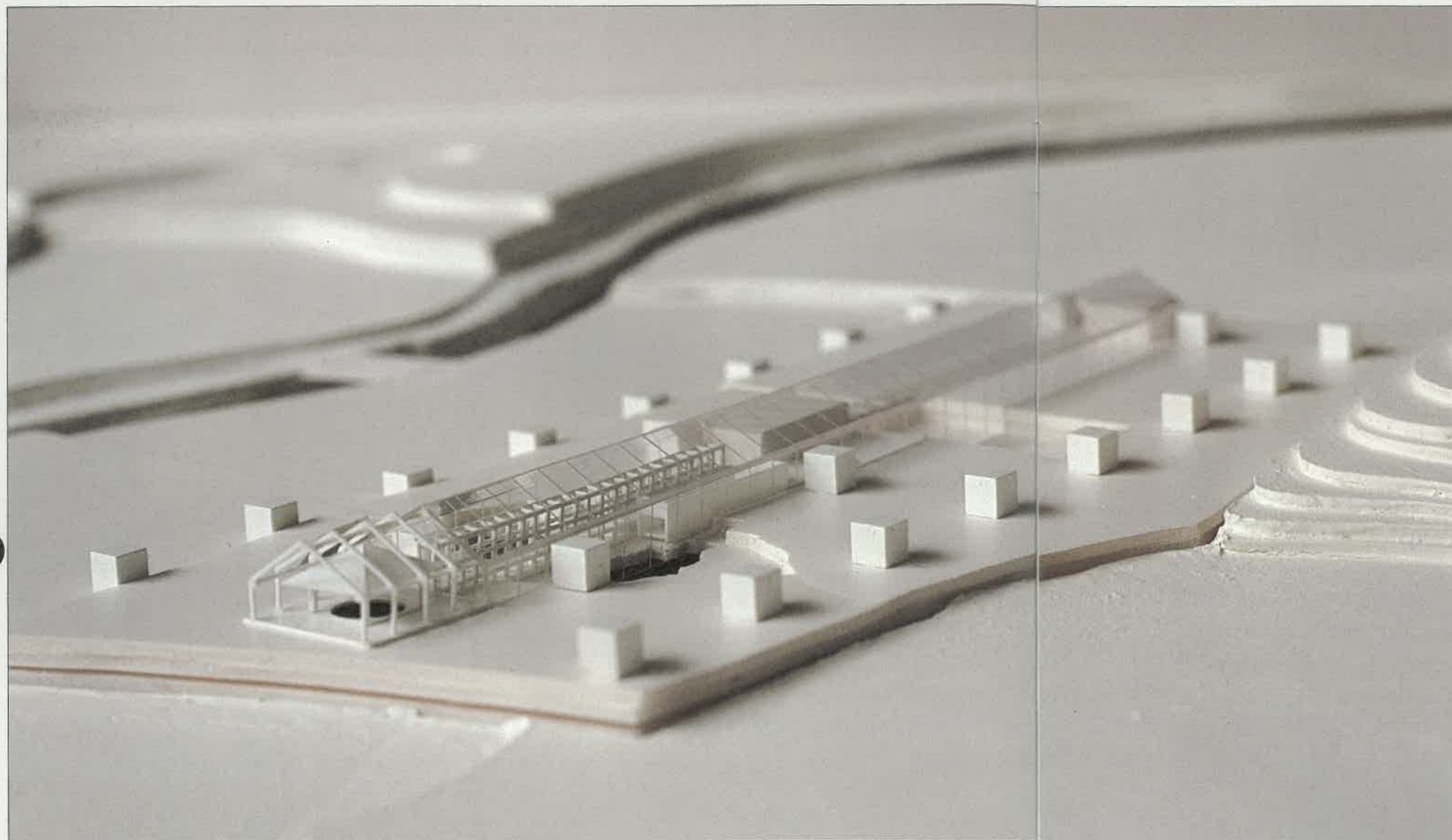
3

06

産山村 花の交流館

設計者 **ワークショップ** 谷内田章夫、木下道郎、北山恒氏に聞く

周囲の風景に調和するような形態が求められている



4

5



○ワークショップ プロフィール
 1978年谷内田章夫、木下道郎、北山恒の3名のパートナーシップによる建築設計事務所として設立する。
 個人住宅や集合住宅をはじめ、商業ビルの企画設計までを手掛ける。また家具や什器、照明器具などのデザイン、グラフィックや商品開発まで行なったりする。3人の個性的なリーダーシップが多様な活動を支えている。
 話題をよんだプロジェクトとしては東京海鮮市場やDOMAなど。
 (左写真) 谷内田、北山、木下の3氏

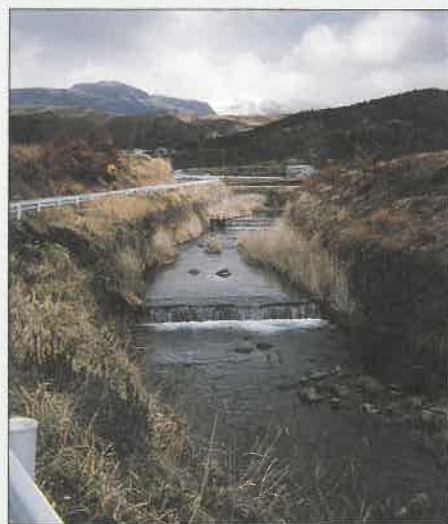
●まず「花の交流館」がどういった施設になるのか教えてください。
 それには、いきさつからお話ししたほうがいいでしょう。はじめ温泉センターというような施設をつくりたいということで説明を受けました。産山村では「ふるさと創生資金」を使って温泉を掘りあてたんです。そこでこの温泉を有効利用して、産山にしかないものをつくろうということになった。
 つまり外から来る観光客のためだけではなく、自分達も日常的に使える施設を考えようということになったんですね。そこで産山の資源である温泉とヒゴタイの花が、この施設に対するみんなのイメージをまとめていったんです。
 ね。産山村にまず谷内田が出かけていき、そのあと東京に来られた村長さんからこのような説明を受けたんです。「むらおこし」にかける熱意が印象的でした。

●なるほど。新しく湧いた温泉をきっかけにコミュニティセンターをつくらうということだったんですね。
 このような知識をもとにわれわれ3人が産山村に出かけました。今回の敷地からは多少離れたところですが、野外バーベキューで牛肉が食べられるコテージに招待していただきました。産山村の担当者の方々が自分達で企画し、つくったものなんです。村の人達と夜通し酒を酌み交わし、今回のプロジェクトの構想を話し合いました。

「敷地も広いし、とにかくこの建物に考えられる限りの夢をいっぱい盛り込もう」と。そこで今回のプロジェクトの当初の与件を超えて、事業プログラムを取り込んだ提案を考えてみようということになりました。
 それからというものは、われわれと産山の人達で、産山村の資源を考えてみたわけです。すなわち「いい水」、「花」、「温泉」、「ハーブ」、「野菜」、「牛」というものです。

このような資源をもとにワークショップでつくった提案は、賑わいのある市場のような多目的スペースを中心に温泉、レストラン、植物栽培のためのグリーンハウス、絵画や陶芸教室などを行なう工房などを配したものでした。そのうえ玉来川の流れを引き込んだ屋外劇場もこの提案に盛り込みました。
 とにかくいろんな要望や条件を合理的に解決していく計画を考えています。そのために何度かの村の人達との集会や議論が役に立ちます。お互いに建物のイメージを高め、はっきりとさせていくことができますからね。

●この提案が事務局のレポート(8頁)にもある村民集会で披露されたわけですね。
 そうです。この集会が開かれる前はかなり格式ばった打ち合わせだったんです(笑い)。実際に目に見える計画が出され、一晩みっちり話し合うといった段階を経て、われわれ設計者と村の人達がお互いにこの計画に対するイメージが見えてきたんですね。
 「自分達の暮らしや自然は誇りなんだ。その生き様を形にしていこうと。」この敷地の周辺はなだらかに広がる地形に温室がいくつも並んでいる。「こんな風景のなかに四角い、都会的な建物は似合わないだろう」って、これ

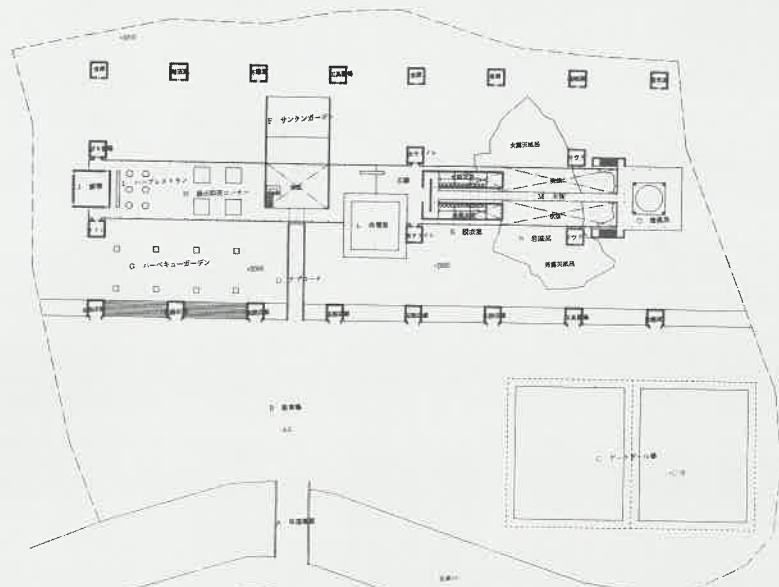


は村の人達からでた話です。つまり、産山の風景の資源をきちんと評価することが重要です。この温室の風景も産山の人達にとって大事なものだと思います。

そんなことから、われわれが提案したガラス張りのグリーンハウスがわりとすんなりと受け入れられたんじゃないかと思えます。

実は温室のアイデアにも二通りの反応がありました。

例えば、「いつも畑仕事をしていて外に出ずっぱりなんだから、こんな中に入っても外部いるような建物じゃなくて、もっとしっかり屋根があったほうが落ち着く」といった意見です。これはもっともな意見ですが、具体的な用途とか、使い方が理解されるにつれて納得していただけたと思います。



6 ●ところでワークショップは都市のなかの商業施設を手掛けることが多かったんですが、今回のプロジェクトはそれとは正反対の環境と機能といえるのではないですか？

そうですね。われわれにとっては初めての公共建築です。われわれはどんな仕事でも自己表現のためだけに建築をデザインすることはありません。商業建築の場合もコマースリズムをいかに評価して、形にしていくか、ある種の合理性というものを追及しているつもりです。ですから今回の建物も与えられた建築のプログラムをより発展させ、形になっていない要望を掘り起こしたり、将来までも含めた使われ方を予測したりしながら、より合理的な説明のつくものをつくっていくとするわけです。その意味ではいつものわれわれの姿勢と変わるところはありませんね。

産山村花の交流館建設構想についての村民集会レポート



基本構想の策定に向けて、村内の「むらおこし」グループ、村長、村役場担当者、県の企画担当セクションが列席した討論集会

が、暮れも押し迫まる1990年12月20日に開催された。

南国の熊本とはいえ、標高700mを超える産山村は日暮れと共にしんと冷え込んでいた。しかし、会場にあてられた池山水源に隣接する集会場は、企画された施設に対する人々の期待も手伝って熱気に満ちていた。

さて集会はワークショップのプレゼンテーションからはじめられた。温泉の入浴施設と排湯を利用したハーブの栽培施設、さらに両者をつなぐ有機的な空間。

つづくディスカッションでは産山の自然と調和する建築デザインはどうあるべきか、外来者の利用と居住者の利用をどう整理

し、整合させ、空間にするのかなど、この建築を村起こしの起爆材としようという村民の思いは真剣そのもの。深夜に至るまで熱心な討議が続いた。

公共建築の設計に当たっては、事前に運営サイドの意見を聞くことは常であるが、実際の利用者、あるいは隣接住民の意見が反映されることは稀である。

産山村の住民を巻き込んだかたちでの建設プロジェクトは、アートポリスという「こだわり」をもてばこそ実現することができるモノづくりであると言える。アートポリスを取り込んだ産山村のむらおこし、その今後に期待したい。

(くまもとアートポリス事務局)

●シリーズ-----6

くまもとアートポリス参加建築家に聞く

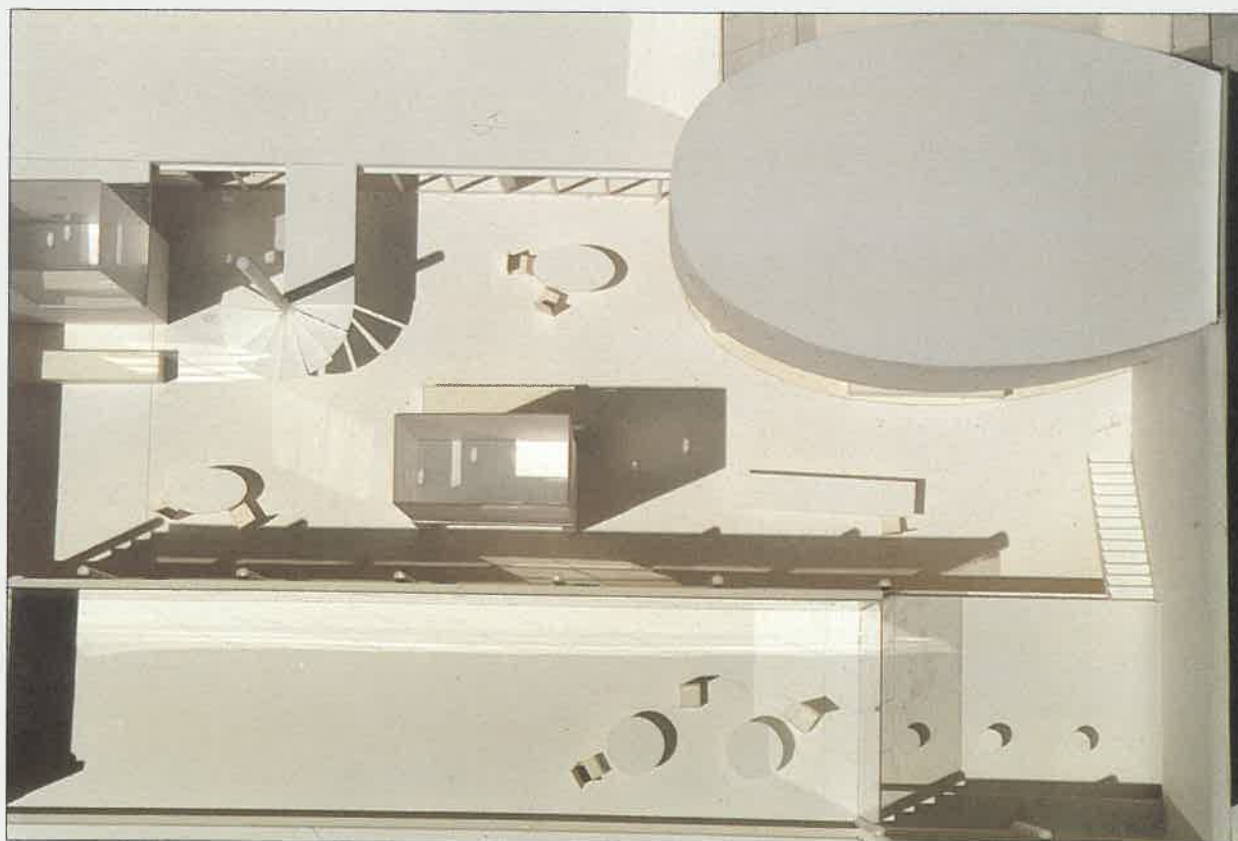
妹島和世

再春館製菓所女子寮 設計者



○妹島和世プロフィール

1956年生まれ/1981年日本女子大学大学院終了/同年伊東豊雄建築設計事務所入所/1997年同事務所退所、妹島和世建築設計事務所設立現在に至る/代表作にプラットフォーム、IIなど。



再春館製菓所は熊本市に本社を構え、日本全国に顧客を持つ。自然化粧品などで広く知られているが、くまもとアートポリスプロジェクトでは民間プロジェクト第1号となった。女性顧客との対応に数多くの女性の社員が勤務するが、今回のプロジェクトは彼女たちの社員寮である。設計を担当する妹島和世氏に伺った。

●妹島さんはいままで住宅や、家具の設計を多く手掛けられてきました。今回の女子寮はそんな経験に連続したものと設計に当たられていますか？

そうですね。事務所を開設してからというもの、小さな家具や什器、照明器具や洗面カウンターなどのデザイン、製品開発にはずうっとかかわってきているんです。

そして実際に雑誌などでわたくしたち

の事務所の作品として紹介されているものは住宅、週末住居など小さなものが多い。

でも最近ではアパートと、そして現在ではリゾート開発までかかわるようになってきました。

だんだん建築の規模は大きくなってきているんですけども、自分ではいつも身体的なスケールや感覚から離れないデザインや建築を考えていますね。今回のプロジェクトでも、「大きな家族のための家をつくる」というイメージ、これは再春館製菓の西川さんから出されたイメージなんですけれども、偶然ですがやはりいままでの建築の考え方や繋がっています。

●計画案を拝見しますと、ずらっと並んだ小さな4人部屋の個室に比べて、

真ん中につくられたリビングルームがすごくゆったりとしてますね。

若い女性がこの寮に住む。ここに住むことが彼女たちの自立心や創造性を養うことになるんだと考えたんですね。

●つまりこの大きな空間の使い方は彼女たちに任せると？

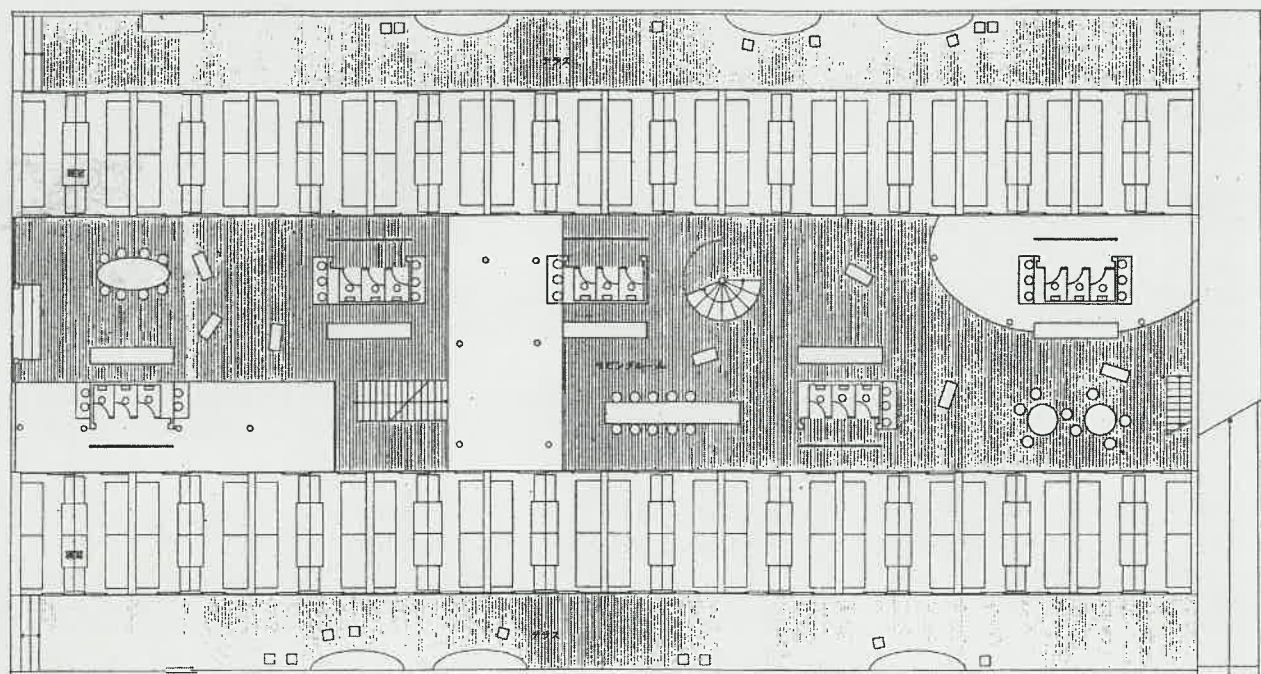
そうですね。この建築や空間をどんどん自分たちでどんどん使いこなして欲しいと考えた。そのためにはまずは若い女性が住みたいと思うような建築じゃないといけませんね。(笑い) たぶん、彼女たちはこのリビングルームでくつろいでいる時間が長いと思うんです。お茶を飲んだり、お菓子を食べたり、おしゃべりをしたりね。

●アートポリスプロジェクト紹介

石打ダム管理所

設計 青木茂

所在地 熊本県宇土郡三角町中村
敷地面積 632.97m²/建築面積
179.41m²/延床面積 270.41m²
竣工 1991年1月
施工 マコト建設



8



そんななかで例えば洋服を選ぶように、家具の配置やら、掃除のしかたなんか自然に決まっていくなじまないかと思っています。

●いわゆるワンルームマンション風の住まい方、つまり自分は自分、人は人というのとはだいぶ違いますね？

時代に逆行しているように聞こえるかもしれませんがね。でも、これはクライアント側から出された意向も反映しているんです。「会社はひとつの家族である」。

そもそもここに入る予定の人たちは新入社員で、それも春に高校を卒業したての若い女性です。彼女たちにとって、はじめて社会に出た、そして仕事は相当ハードであることは間違いない。肉体的にも、精神的にもです。そこでワンルームマンションみたいなところに住ませたら、多分自分のなかに引きこもってしまうだろう。こんな配慮からまず「大きな家」の発想が出てきたんだと思います。

それに対して、外部空間のような緑が配されたフリースペースを提案したんです。そのうえ、通常でしたら敷地条件から考えて中庭型の配置計画を取ると思いますが、敷地中央に建物を配置して両側に外部空間を取ったわけです。今建設されているものは、フリースペースのイメージと機能はリビングルームに盛り込まれています。

●妹島さんは、若い女性のライフスタイルを的確に建築空間に表現できる建築家という一般的なイメージがあると思いますが。

そうでしょうか……？

あるいはそのような期待からこの設計を依頼されたのかも知れませんが、でもこの計画では自分でも今までのものから、大きく踏み出したものになるのではと考えていますね。大きな領域だけで構成されているような空間を考えていますからね。

空間をつくり、自分もつくられていくようなものを意図しています。

これは一般的にいわれている若い女の子の住まいとはかなり違ったものになるのではないかと思いますよ。



湖畔に建つ石打ダム管理所

三角港から山あいに入って車で10分ほど。目前には新しく建設される石打ダムが突然姿を現す。

やがて水を満々とたたえる湖のほとりにへばりつくようにこの管理所が崖っぷちに建つ。

8枚の壁が地盤から立ち上がり、その間に空間がつけられている。雄大な人工物と自然の間に立つ調停者のようだ。

ダムのコントロール機器が収められ、普段は自動的に制御されるから、人気はない。しかし、この建物はいつでもダムを見つめている。

●設計にあたって

「日経アーキテクチャ」誌に掲載された細川前知事のアートポリス構想を読んで共感し、実は「県営帯山A団地」のコンペに応募しようとしていたのだ。

そんなわけで、いろいろな意味で今回のプロジェクトには力が入った。

ダムという自然の摂理に逆らった機能を持つ構造物が発するエネルギーに対して、どれだけのインパクトを与えられるか、そして水というものをどう捉え、デザインの中心に取り込むことが

できるか、このことを目標にした。雨や川や海と姿を変える水を、エッシャーが描く絵にヒントを得て、X軸からY軸へと変化する壁をつくった。計画そのものはダムを軸として、対岸に建設が予定されるダム資料館からの軸を受けとめるように配置されている。コンクリートの無垢でつくられた外部と異なり、建物の内部は色や素材がさまざまに使われている。この建物の性格から一般の人が出入りすることはできないが、水のなかを容易に覗くことができないように。(青木茂)

9

06

●参加プロジェクト・リスト

プロジェクト名	設計者名	作業過程	完成予定
熊本北警察署	篠原一男+太宏設計事務所	竣工	-
県営保田窪第一団地	山本理顕	1期完了	-
加久藤トンネル換気所	小山明+パシフィックコンサルタンツ	竣工	-
三角港フェリーターミナル	葉祥栄	竣工	-
八代市博物館 未来の森ミュージアム	伊東豊雄	建設中	1991.05
熊本市公衆便所(花畑公園)	大塚豊一	竣工	-
熊本市公衆便所(江津湖公園)	日田兆	竣工	-
熊本市営新地団地A	早川邦彦	建設中	1991.03
熊本市営新地団地B	緒方理一郎	建設中	-
熊本市営新地団地C	富永譲	実施設計中	-
熊本市営新地団地D	西岡弘	実施設計中	-
熊本市営新地団地E	上田憲二郎	実施設計中	-
県道橋景観整備 (基礎調査)	倉俣史朗+高木富士川計画事務所	計画完了	-
熊本市営託麻団地	坂本一成+長谷川逸子+松永安光	建設中	-
山鹿市光のまちづくり計画	岩崎敬+瀬口英徳	計画策定中	-
牛深港架橋	レンソ・ピ'アノ+ピ'ター・ライス+岡部憲明+前田設計	設計中	-
県営帯山A団地 (公開コンペ)	新納至門	実施設計中	-
玉名市文化施設	豊田文生(基本構想)	基本構想策定中	-
湯の香橋	岸和郎	建設中	1991.03
清和村文楽館	石井和紘	建設中	1991.10
風土記の丘資料館	安藤忠雄	建設中	1991.12
球磨工業高校伝統建築実習棟	象設計集団	建設中	1991.03
鮎の瀬大橋	大野美代子+中央設計コンサルタンツ	設計中	-
公園ファニチャーデザイン同整備マニュアル	沖健次+東京ランドスケープ研究所	設計中	-
松島町下水処理場管理棟	斉藤宏	建設中	1992.03
石打ダム管理所	青木茂	竣工	-

プロジェクト名	設計者名	作業過程	完成予定
県営新渡鹿団地	小宮山昭	実施設計中	-
大津町第2庁舎および町民交流施設	鈴木了二	実施設計中	-
玉名市ふるさと展望館	高崎正治	実施設計中	-
大甲橋景観整備	倉俣史朗	設計中	-
草地畜産研究所牛舎	トム・ヘナガン+桜樹会・古川建築事務所	基本設計中	-
再春館製菓所女子寮	妹島和世	建設中	-
県立美術館分館	パ'ニャ・アンド・ト'リス+大和設計	基本設計中	-
湯前町まんが美術館	桂英昭	基本設計中	-
県営住宅竜蛇平団地	元倉真琴	基本設計中	-
津奈木町物産センター	北山孝二郎	基本設計中	-
チャペルの鐘展望公園	梅田正徳+スペースデザイン設計事務所	基本設計中	-
花の交流館	ワークショップ	基本構想中	-
阿蘇山頂広場公衆トイレ	木島安史	契約準備中	-

●参加プロジェクト建設地

